きょういく・さど

令和７年３月14日
佐渡市教育委員会
学校教育課

次期学習指導要領改訂に向けて

教育次長　鈴木　健一郎

昨年 12 月、中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」が諮問され、いよいよ学習指導要領の次期改訂に向けた議論が本格的にスタートしました。

検討事項は様々ありますが、気になったものとしては次のようなことが挙げられています。

- ○学ぶ意味、社会やキャリアとのつながりを意識した指導
- ○各学校や教育委員会の創意工夫を最大限引き出し、子供一人一人の可能性が輝く柔軟な教育課程
- ○質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」の改善・充実の在り方
- ○教育委員会に対する支援の強化、指導主事等の資質・能力の向上の在り方

これらの点はいずれも、今現在においても各学校や教育委員会において大事にしている視点ではありますが、「新しい時代の学び」として、今後ますます求められていくことになります。

中央教育審議会では、学校長や大学教授等をはじめ様々な立場の方が集結し、これから何十回と議論を重ねていくことになります。しかし、決して遠い世界の話などではなく、今は YouTube でライブ配信もされており、気軽に誰でも傍聴することができます。学校教育をめぐる身近なこととして、先生方はもちろん、我々職員も含めて「新しい時代の学び」を支えていく当事者として、これからの「学校とは」「授業とは」「教師とは」「教育行政とは」どうあるべきか、改めて考えたり見つめ直したりするためのきっかけや話題づくりになりますと幸いです。

令和６年度が間もなく終わります。多忙な日々の中にも、子供たちの成長した姿、頼もしく感じる姿を目にすることができたのではないでしょうか。令和７年度も引き続き、子供たちの学びの充実のためにお互いに励んでまいりましょう。

なお、私事ではありますが、佐渡市での２年間の任期を終え、来年度からは文部科学省に戻ることとなります。温かく迎えていただいたこと、様々にご協力とご支援をいただいたこと、そして、ご指導いただけましたことに深く感謝申し上げます。

授業観、教師観、子ども観の転換！

「教師が教える授業」から「子どもが自己調整しながら学びを進める授業」へ

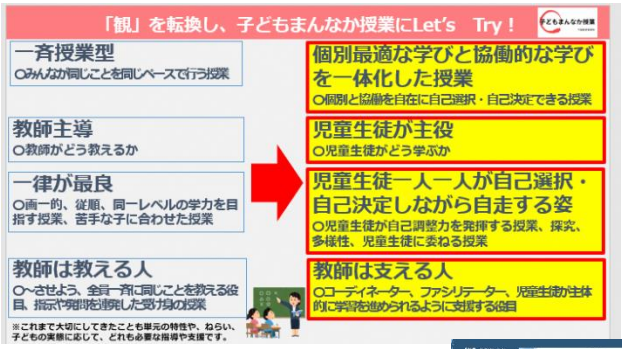
下越教育事務所指導主事　北川　禎

１月期の日曜劇場で、一人の官僚教師と令和の高校生たちが社会の不条理に立ち向かう、教育のあるべき真の姿を描くドラマ「御上先生」が放送されています。ご覧になっている方も多いのではないでしょうか。「御上先生」は、同作の「学校教育監修」にも携わる工藤勇一氏をモデルにしているそうです。ある教育関係者は、工藤氏について次のように述べています。

> **過去のあるドラマの弊害で生徒に寄り添う教員が増え、当時の工藤氏は、子供たちは与えられることが当たり前になったと実感したようです。生徒の目線に立つことは大切です。でも、教師は導くのが仕事で、一から十まで答えを与えればいいわけではありません。行き過ぎがあると、生徒は自分で考えなくなってしまう。自らの意思で行動する主体性を失った子供の増加に危機感を覚え、教育現場の改革が必要であると痛感したそうです。**
>
> （ネットニュースの記事を引用、一部変更有り）

工藤氏は宿題や定期テストを廃止する等、“学校の当たり前をやめた”改革でも話題となった教育者（元校長）です。

さて、今私たちもこれまで当たり前としてきた「授業観」「教師観」「子ども観」を転換することが求められています。今年度の学校訪問では、以下のようなスライドを用いて、主に「授業観」の転換の話をさせていただきました。



当事務所では、上記のスライドのように、これまでの「教師が教える授業」から「子どもが自己調整しながら学びを進める授業」へ転換し、児童生徒が主体的に学びを進めていく「子どもまんなか授業」を推進しています。

（詳細は、今月発行の Teachers' 2025 参照）

今年度の訪問においても、「子どもが自己調整しながら学びを進める授業」について、共に学ぶ機会をたくさんいただきました。受け入れてくださった皆様に感謝申し上げます。来年度も、随時プロジェクト支援訪問を受け付けていますので、佐渡市内の学校全体で「子どもまんなか授業」が令和の教育界のスタンダードとなるように取り組んでいきましょう。どうぞお気軽にご連絡ください。

課題解決型職場体験の充実に向けて

教育指導主事　齋藤　千賀子

今年度は 104 の事業所の協力のもと、課題解決型職場体験を実施することができました。

体験当日だけでなく、事前事後学習や提案発表を参観させていただく中で、意欲的に学ぶ生徒の姿を見ることができました。

課題解決型職場体験は、キャリア教育の一環として、中学校２年生の総合的な学習の時間に位置付けられています。各校で単元の指導計画を作成して指導されていますが、キャリア教育や探究的な学びの視点から、次のような課題が挙げられています。

- **体験先を生徒が選べない中で、生徒のモチベーションをどう高めていけばよいか。**
- **課題を解決することが自分自身とどう繋がっていくのかイメージすることや、自分事として捉えさせるのが難しい**
- **事業所によって、ミッションの捉え方や難易度に差が大きい。**

今年度、単元の目標を「働くことをテーマに、自分で立てた課題の探究活動や課題解決型職場体験を通して働くことの意義を学び、自己のよりよい生き方を考える」として取り組んだ学校がありました。また、事業所の課題の背景を考えさせたり、事業所への提案を２段階で行ったりするなど、探究を深める工夫をした学校もありました。

単元づくりは容易ではありません。「単元づくりは、教師の自律的で創造的な営みである。学校として既に十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の生徒の実態に即して、単元づくりを行う必要がある。」４月に実施した研修会で、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤博伸 先生からご指導いただいたことです。

佐渡市の課題解決型職場体験が充実したものになるよう、教育委員会としても内容の改善、新規事業所の開拓等に努めていきます。

安全な通学路の実現に向けて

教育指導主事　村川　健太郎

日頃より、通学路の安全に関して種々のご配慮をいただき感謝申し上げます。

令和３年に千葉県八街市で下校中の５人の児童が飲酒運転のトラックにはねられて死傷するという悲惨な事故が起きました。二度と悲劇を繰り返さないために全国で緊急点検が行われ、その際の危険箇所については従前の観点に加え、次の３点がリストアップされました。

- **見通しの良い道路や幹線道路の抜け道になっている道路など車の速度が上がりやすい箇所や大型車の進入が多い箇所**
- **過去に事故に至らなくても、ヒヤリハットの事例があった箇所**
- **保護者、見守り活動者、地域住民等から市町村への改善要請があった箇所**

現在、各校から報告のあった市内の危険箇所数は 108 箇所となっています。

平成 26 年から佐渡市教委と佐渡警察、佐渡地域振興局、佐渡市建設課等と連携した「交通安全プログラム」を実施し、合同点検や現地調査等を経て対策を講じていますが、ハード面の整備はなかなか時間がかかるのが現状です。

各校におかれましては、どこが危険箇所でどのように気を付ける必要があるのかを児童生徒に伝えるとともに、保護者の皆様にも生活道路として使用する学区外の危険箇所についても把握していただければ幸いです。（市のＨＰにアップしていますのでご活用ください）

時期は未定ですが、今後、小学校を中心に「ゾーン 30（プラス）」も市内に導入される見込みです。子どもたちがより安全に通学できる環境づくりにご理解とご協力をお願いいたします。

※ゾーン 30 とは…歩行者の安全な通行確保を目的として、区域（ゾーン）を定めて最高速度 30 km/h の速度規制や抜け道としての通行行為の抑制などを行う生活道路対策。

おめでとうございます！　令和６年度　新潟県優秀教職員表彰（佐渡市から２名表彰）

〇赤泊小学校　教諭　川上　大雅さん　　〇畑野小学校　養護教諭　田中　美穂さん

今年度も残りわずかとなりました。年度末のまとめ・新年度準備と大変忙しい中だからこそ、互いに声をかけ合い、笑顔で仕事ができる良好な職場環境づくりに努めていきましょう。